令和４年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号２７　大泉第二中学校

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	漢字学習はある程度定着している生徒もいるが、漢字の読み書きが不得意な生徒との二極化が見られる。文字を正しく書くことが苦手な生徒が多い。	漢字テストを定例化することで、読み書き練習を徹底させ、達成感と学習速度を上げる。書写の授業において、一画一画正確に書くこと、画と画の間を均等にすることなどを重点的に指導する。	○
社会	教科書の重要語句や小学校での学習事項など基礎的・基本的な知識や技能の得差が大きい。学習自体への意欲は比較的高いが、学力差による学習への理解度が思考・判断・表現力に影響を及ぼしている。	小テストや単元の復習等を行う。また、プロジェクターでの資料の投影、タブレットでの調べ学習やＥライブラリの課題等、ICT 機器を活用して、理解度が低い生徒の意欲が学力に結び付くような適切な支援を行う。	○
数学	応用問題も様々なアプローチから問題を考えることができる生徒がいる一方で、そもそも基礎・基本的な計算ができない生徒も多い。また、基礎的な計算（四則計算、文字式の計算、一次・連立・二次方程式、展開・因数分解）ができていないため数学に対して苦手意識を持った生徒が多い。	教科書の導入だけではなく、生徒の実体験に近い事柄を各単元の導入に多く取り入れることで、興味や関心をもちやすくする。授業の初めの小テストで生徒の習熟度を確認することで、実態に合った授業になるよう取り組む。	○
理科	積極的に授業に参加しようとする生徒が多いが、小学校から現在までの基礎的・基本的な知識や技能を習得できていない分野や応用問題では苦手意識が高い。観察・実験には意欲的に参加する生徒が多くいる。	観察・実験に制限があるが、ICT 機器（デジタル教科書）や演示実験などを効果的に用い、視覚的にわかりやすい指導を行っていく。また、繰り返し実験動画を見たり、問題演習を行うなど、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けていく。	○
音楽	この過去２年間音楽の基本的活動である表現(歌唱)活動がまったくできないでいたが，今年度数ヶ月歌唱・合唱活動ができるようになり歌いたがっていた生徒たちは積極的に取り組んでいる。しかしこの２年間のブランクは大きく，表現することに抵抗のある生徒たちの底上げをしていく必要がある。	３年前よりかなり縮小した形ではあるが，合唱コンクールへのアプローチの仕方から「歌おう！」という雰囲気を作っていき，音楽の基本的活動である「歌唱」を中心に毎回の授業，学習を進めていくことができるようになってきた。ぜひ継続してやっていきたい。	○
美術	課題ごとにアイディアノートを活用しながら個々の制作状況を把握し、改善を図ってきたが、努力を要する生徒やなかなか制作が進んで行かない生徒に寄り添いながら、技能や発想の能力を高めていく指導の工夫が必要である。	生徒が自主的に制作中の質問や要望等を記入する、制作ノートを活用し、授業中の観察だけでは不十分な個々のつまずきの状況を把握する。また、個に応じた資料を効果的に活用し、発想が豊かに育めるよう指導する。	○
保健体育	コロナによる影響で、基礎体力、基本動作の定着に差が出てきている。体力向上が著しい時期なので、運動量の確保をすること、最低限身に付けさせたい基礎体力を補強運動で定着させる必要がある。	授業の進め方は、毎時間繰り返し行える内容にし、事前にホワイトボードに本時のポイントを記入し、視覚的に訴えることで説明時間を短縮し、運動時間を確保する。また、生徒の基礎体力を確認しながら、補強運動の種類や回数の設定をし、毎時間取り組ませる事で定着を図る。	○
技術家庭	製作において、技能力の低い生徒やわからない点を自ら聞くことのできない生徒に寄り添い、技能や主体性の向上に結び付く指導の工夫が必要である。（家庭） 身の回りの生活から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、具体化するといった課題を解決する力を定着させる必要がある。（技術）	製作カードに本時の目標や自らの課題点を書き､進度における差を意識しさせる。また、個に応じて声掛けや、実物見本などの視覚からの指導も取り入れた指導を行う。（家庭） 習得した知識及び技術を活用できるような身近な生活場面を想定したり、互いの考えを伝え合い、高め合う協働的な学びの場面を設定したりすることで課題を解決する能力の定着を図る。（技術）	○
外国語	概ね授業への参加意欲は高く、特に聞く・話すことに関しては、積極的に取り組む姿勢がみられるが、書くことについては努力を要する生徒が一定数いる。	書くことに対して抵抗感が生まれないように、適宜選択肢や単語のレベルからスモールステップで取り組めるように工夫する。また、書きたいという意欲を引き出せるよう生徒にとって身近な話題をなるべく取り入れていく。	○